

平成7年（1995年）阪神・淡路大震災



阪神・淡路大震災の被害と土砂災害

1995年1月17日午前5時46分52秒に発生した兵庫県南部地震は、死者6434人、家屋の全壊10万戸をはじめ、日本国内の自然災害では戦後最大の被害を出し、阪神・淡路大震災とも呼ばれています。

地震の概要	
発生年月日	平成7年(1995年)1月17日(火)5時46分
地震名	平成7年(1995年)兵庫県南部地震
震源	淡路島(北緯34度36分、東経135度02分)
震源の深さ	16km
規模	マグニチュード7.3
各地の震度	淡路、神戸、芦屋、西宮、宝塚などで、最大震度7

消防庁資料(確定報)より



街の被災状況



※水道断水、ガス供給停止、
停電、電話不通については、
ピーク時の数である。

地震の被害					
人的被害	死者	6,434人	非住家	公共建物	1,579棟
	行方不明者	3人	その他		40,917棟
	負重傷	10,683人	文教施設		1,875箇所
	傷軽傷者	33,109人	道路		7,245箇所
住家被害	計	43,792人	橋りょう		330箇所
	全壊	104,906棟	河川		774箇所
		186,175箇所	崖くずれ		347箇所
	半壊	144,274棟	ブロック塀等		2,468箇所
274,182箇所		水道断水		約130万戸	
害	一部破損	390,506棟	ガス供給停止		約86万戸
	合計	639,686棟	停電		約260万戸
			電話不通		30万回線超

出火件数				焼損床面積
建物火災	車両火災	その他火災	合計	
269件	9件	15件	293件	835,858㎡

消防庁資料(確定報)より

地震にともなう、山腹崩壊・地すべりなどの土砂災害

兵庫県南部地震の影響によって、700ヶ所以上で山腹の崩壊、地すべりなどの土砂災害が発生しました。

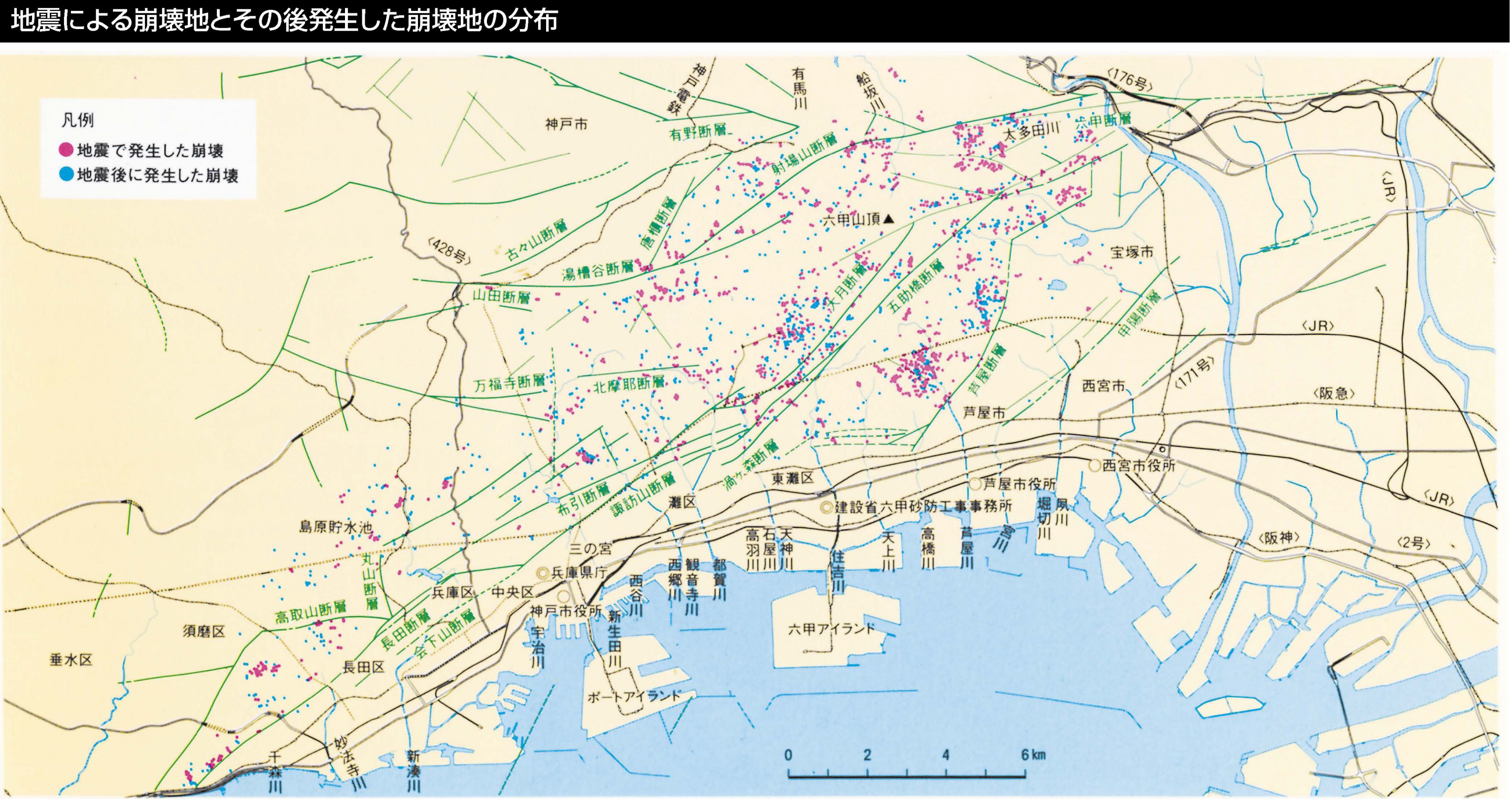


住吉台の山腹崩壊



地震後も増加する崩壊箇所

兵庫県南部地震で大きく揺さぶられた六甲山地。以前よりはるかに少ない雨で土砂崩れなどが発生するようになり、その後の雨などで崩壊地の数は2000箇所以上に増加しました。



■なぜ、六甲山地で崩壊がおきやすいのか

六甲山地は今からおよそ100万年前から始まった六甲変動によって、地下の地層がつき上がって山地となりました。そのため六甲山には東西方向にいくつもの断層が走っています。

また六甲山の大部分はマグマが地下で冷えて固まった花崗岩でできています。御影石とも呼ばれ、高級な石材としても使われる花崗岩ですが、雨や風に長くさらされると崩れやすくなります。これを「風化」といいます。六甲山系は、花崗岩が長い年月の風化作用によってマサ土と呼ばれるもろい地質に変化しています。



硬い花崗岩



花崗岩が風化した「マサ土」